

花壇づくり お役立ちプチ情報 2026.6. 「ハーブの女王 ラベンダーの種類紹介」

ラベンダーは初夏に爽やかな色合いの花を咲かせ、良い香りがすることで人気です。地中海沿岸の日当たりや風通しの良い環境に生息するものが多く、高温多湿が苦手なので、名古屋では「夏越しが難しい」という声も良く聞きます。

今回はラベンダーの代表的な系統について、名古屋でも栽培しやすい3系統とその他代表的な系統をご紹介します。

◆名古屋でも頑張るおすすめのラベンダー

1. ストエカス系

花の先に飛びだしたウサギの耳のような苞のある花穂が特徴的で一般的にフレンチラベンダーと呼ばれる種類です。

甘い香りもしますが、花の観賞をメインとすることが多いです。

原産地は地中海沿岸、北アフリカで暑さに強く、夏越ししやすいので名古屋でも比較的栽培しやすい品種です。

半耐寒性で -5°C ぐらいまでは耐えられるので、名古屋の冬はそれほど心配ありませんが、寒冷地では防寒対策が必要です。



代表的な品種
・アボンビユー
・ラビットイヤーズパープル

2. ラバンディン系

後述するアングスティフォリア系と耐暑性のあるスパイクラベンダー(※)の交配種で花穂が大きく、ラバンディンラベンダーと呼ばれます。

精油分が多く、ラベンダーらしい爽やかな香りが強いのが特徴です。

暑さに比較的強く、寒さにも強い(-10°C まで耐える)ため、名古屋で育てやすい種類です。大株に成長するので広い場所が必要です。

荒子川公園のラベンダー園にはこの系統のラベンダー・グロッソが多く植えられています。



代表的な品種
・グロッソ
・スーパーセビリアンブルー

3. デンタータ系

デンタータはラテン語で「歯のような」という意味で、ギザギザの切れ込みのある葉が特徴でフリンジラベンダーとも呼ばれています。

春と秋の2回咲く四季咲きですが、香りはやや弱いです。

原産地は、カナリア諸島、アフリカ北部、スペインなどでストエカス系と同じく比較的暑さに強く、寒さにはやや弱い性質です。



代表的な品種
・モネ
・ランビケンス

◆名古屋の暑さには弱いけどチャレンジしてみたいラベンダー

・アングスティフォリア系

代表的な系統で、ラベンダーというところの系統を思い浮かべる方が多く、南仏や北海道のラベンダー畑にはこの系統が良く植えられています。イングリッシュラベンダー、コモンラベンダーとも呼ばれ、深く甘い香りが楽しめ、アロマオイル、リース、ポプリなどに利用されます。原産地は南フランスのプロバンス地方で寒さにはとても強く-15℃ぐらいまで耐えます。高温多湿に弱いため、名古屋での夏越しの難易度は高いです。



代表的な品種
・ヒドコート
・おかむらさき

・プテロストエカス系

レースのように細かな切れ込みのある葉が美しく、レースラベンダーと呼ばれています。四季咲きで終わった花を切り戻すと次の花が咲いてきますが、香りは弱いので花や葉を鑑賞して楽しめます。原産地はカナリア諸島などで、暑さ寒さに弱いため、名古屋で栽培するには少し工夫が必要です。



代表的な品種
・ピナータ
・オリガノ

※スパイクラベンダー

地中海沿岸やポルトガルが原産といわれるラベンダーの1種です。他のラベンダーに比べ樟腦のようなくっきりとした香りが強く「男のラベンダー」とも呼ばれています。遅咲きで暑さに強いので、他の系統と交配することで、耐暑性のあるラベンダーが多く生み出されています。

～夏越しのための管理ポイント～

梅雨～夏の高温多湿が大敵です。水はけ、風通しを良く管理して、蒸れを防ぎましょう。

- ・水はけの良い土に植えましょう
- ・十分な間隔をあけて植えましょう。
- ・梅雨入り前に剪定し株の内側の混み合った枝を間引きましょう。
- ・暑さに弱い種類は鉢で管理しましょう。

※鉢に植えることで、梅雨の間は軒下に取り込んだり、真夏は午前中のみ日光が当たるような場所に環境に移動するなどの対策ができます。すのこや棚の上に鉢を置き、風通しを確保するのもおすすめです。

開花後、ドライフラワーなどとしても楽しめるラベンダー、ぜひご自宅の環境に合うラベンダーを見つけて楽しんでみてください。